

はじめに

近年、プラスチックゴミによる海洋汚染は急速に深刻化しています。日本という清潔で美しい国に住んでいる私たちは、このような問題になかなか触れることはありません。現在大学に通っている多くの若い世代の人間は尚更でしょう。生まれた時から当たり前のようにプラスチックが存在し、何を疑うこともなく使い捨ててきたからです。

2018年の段階で、日本はプラスチック生産量が世界で第3位、特に1人当たりの容器包装プラスチックゴミの発生量は世界第2位というデータがあります。(WWF ジャパンより) 私たちはこの事実に、あるインスタレーション作品(次ページ記載)を制作する中で気づきました。

作品に触れることで新しいことに気づき、考え、それは行動に現れることもあります。実際に、ある学生は必ずマイバッグを携帯するようになり、さらにある学生はプラスチック製のトレイにパック詰めされた肉ではなく、自宅から皿や容器を持参して、精肉店で肉を購入するようになりました。ゴミを出すことに対する罪悪感や、ある種の責任感を感じるようになったのです。

そして、作品がきっかけで起こった環境問題に対する意識の変化から、私たちは制作した作品に対して起こる“リアクション”の面白さを感じました。作品を見た人が、何を思い、何を考えるのか、そこには非常に大きな可能性があります。興味を示す人、示さない人、気持ちが悪いと思う人、美しい部分を見つけ出してくれる人。その想像力や感性は様々です。

より多くの人に作品を見てもらいたいという気持ちから、「ごみプロジェクト」は始まりました。本学で作品を展示することで、普段なかなか美術館や芸術学部へ足を運ぶことのない人にも作品に触れてもらうことができます。特に私たちのような若い世代、将来を担っていく学生たちが海洋プラスチック問題との距離を縮め、“ゴミ”についてほんの少しでも何か考えるきっかけになれるかもしれません。

また、視覚芸術コース3年生一同の大きな成長の場になることも、大いに期待しております。